

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介します
一緒に
歴史の散歩に
出掛けましょう

とく
ん歩
し歴史
散

No.17

北新得墓地の無縁碑

明治40年（1907）9月8日に開通した官設鉄道十勝線（旭川～帯広間）は、新得の発展に大きな役割を果たしましたが、その敷設工事は困難を極めました。中でも難工事と言われたのが、滋賀県の志岐組が請け負った旧狩勝トンネル工事でした。

そこには、周旋屋によって本州方面からだまされて集められた多くのタコと呼ばれた土労働者が働いていました。彼らは、工事現場近くに建てられた飯場（タコ部屋）に押し込められ、粗末な食事だけで日の出から日没まで長時間にわたって強制的に働かされました。栄養失調や病気になることも医者に診てもらえず、多くの人が命を落としました。一説では、土中に埋められたり、トンネルの人柱にされたりしたという話も伝わっています。



北新得墓地の無縁碑

小トンネル工事には堀内組が下請けに入り、その傘下の掛田組の掛田万次郎と佐々木藤三郎は明治37年（1904）8月、北新得墓地に1基の石碑を建立しました。そこには、工事の犠牲となったと思われる永尾六兵衛以下10人の名前が刻まれています。碑の正面に「釈教順」と刻まれていることから、浄土真宗とゆかりがある人が関わって建立されたと考えられています。

建立から110年以上が経過し、碑の存在も忘れられるようになってきていますので、新得町の歴史を語る礎として今後も永く保存していかなければなりません。

碑は時の経過により苔むし、傾きも大きくなってきたため平成24年（2012）10月、新得町郷土研究会が株式会社古川建設、弘願寺の協力によりすぐ近くの地盤の良い場所へ移設しました。

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく1月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼新春ということで胸躍る記事が多く和みます。新春座談会は人やテーマが毎年変わりとっても有効な施策だと思えます。座談会の中で情報発信の話が取り上げられていましたが、行政、企業、個人と町全体の課題部分だと考えていますので、今後の活動に期待しています。

▼地域おこし協力隊には定住・定着や地域力の維持強化を目的とした制度とありますが、町としてどこを目的としてウエイトを置いているかが不明確のような気がしました。地域の維持強化であれば、契約社員としてミッションを達成させることが目的となりますが、座談会のお話を伺っていると、隊員が描く将来像が隊員のミッションや活動とズレが生じているのではないのでしょうか。定住を主眼に置くのであれば、今の活動が将来の活動へ発展できるようにつなげられるシステムが必要なのだと思います。

ひとこと手話講座

～No.30～

○買う

○さく

右手の親指と人差し指で作った輪を左手の平から前に出す

右手の指を親指から順に折り曲げる

▼今回は成人式ということもあり紹介記事がカラー印刷でしたが、一部木ワイトバランスがバラバラでした。折角の晴れの舞台ですので綺麗な一枚を。

町長室から
こんにちは

新得町長 浜田正利

最近の話題から期待と不安を四点報告します。

一点目は、昨年4月に開校した新得高等支援学校の平成29年度入試出願状況が1月23日に公表され、定員16人のところに応募者が20人となりました。校長先生を中心とした先生方の努力により、定員を超えたものと思っており、地元の立場として2期生はどのくらい入学者がいるのか不安な部分もありましたが、若干安堵しています。今から4月の入学式が楽しみです。

二点目は、J R根室線の鉄路問題です。台風災害の影響により列車が不通になっていましたが、12月22日にトマム・芽室間が再開し、新得駅にも列車が戻ってきました。安堵した反面、富良野方面への鉄路は手つかずの状態です。「会社単独では維持が困難な線区」として「バス等への転換」が公表されまし



た。鉄路問題は沿線自治体では対応しきれない問題であり、J R北海道の発足の経緯からも「国策」と考えています。国会議員、北海道をはじめとする関係者の対応に期待をしていますが、沿線自治体として黙って見ているだけとはならないので、何ができるか皆さんと相談をしながら対応を進めたいと思います。

三点目は、現在、平成29年度の予算編成を進めています。一般会計の予算額は69億4千万円台になりそうです。内容的には災害復旧が主になり、新規事業の中には先延ばしをしたものもありますが、次に繋がる施策も盛り込んでいます。予算議会は3月中旬に開催予定ですが、町民の皆さんのための予算ですので、是非、議場に足を運んでいただき、議論を聞いていただきたいと思っています。

四点目は、役場職員の状況です。4月1日の職員採用は、将来の退職者の状況を勘案しながら10人の予定で手続を進めています。正職員数については、平成28年4月1日現在では114人でしたが、本年3月末までの9人の退職予定者を含め、差し引き1人増の115名になる予定です。昨年の広報2月号でも触れましたが、必要以上のスピードで退職、採用が進んでおり、経験不足から行政サービスの質の低下につながる懸念を感じています。職員の質の向上のために様々な取り組みをしていますが、町民の皆さんにおかれましても職員を育てていく事について今まで以上のご協力を切にお願いします。

短歌

新得短歌会

- えさ待つか松の本立にひそみいる
雀を呼びぬ夫のひと声 高橋 幸子
- 年明けのラジオの奏で煙やかな
トラレペットに躍動の力 菊地 康雄
- 何ひとつ欲しいものなど無いけれど
陽に向き踊る花に水やる 中井由利子
- 初春の十勝平野はしずかなり
気嵐わいて昇る朝日が 荒木 風月
- 何か得て何か失ふ冬の日や
ひかりも風もはすかひにくる 宮脇 和子
- 具だくさん夫の好みの蟹粥を
思いつ七草揃えきざみし 斎藤美代子
- 五十年希有なる節目の新年を
寿ぐ宴新得歌会 樋口 かおり
- 原石よ気づいてほしい輝きを
みずから磨け世と人のため 樋口 智一

俳句

新得俳句同好会

- 初飛びの二十歳の少女むさび似
片桐 波月
- 家族愛緯で祝うお正月
渡辺アヤ子
- つつがなく男三代年酒酌む
八木 育子
- 若水に断水残像思い出す
大崎かずお
- 花の名の和菓子囲みて年始め
高橋 民女
- 恙なく年寿を生きて年明け
月井 愁峰
- 冬ごもり灯油にたよる荒屋かな
袴田ゆき男
- 屋根の雪西陽に映えて目に眩し
斎藤 青苔
- 捨て下手の昭和一桁懐手
中島 土方